

編集 後記

今年6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心とした集中豪雨により、大きな被害もたらされました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を祈念いたします。

豪雨に続き、災害級猛暑が日本列島を脅かしています。7月16日から22日までの間に全国で2万2647人が救急搬送され、死亡者数も65人に上るという状況は、統計開始の2008年以来最多と報告されています。公衆衛生学的にも、熱中症に対する正しい理解と予防対策を社会に向けて伝えていかねばならないと感じます。

第65巻第8号では、英文原著、和文原著、公衆衛生活動報告、資料それぞれ1編ずつが掲載されました。テーマも多岐にわたっており、いずれも時宜を得た興味深いものです。

1編目の英文原著は、保健師が新人保健師の指導経験を通して得る学びを評価するための質問紙の開発過程をまとめたものです。2編目の和文原著は、高齢者の睡眠改善および睡眠薬減量に対する簡易型の認知行動療法の有効性を検証したものです。3編目の公衆衛生活動報告は、平成27～28年度地域保健総合推進事業「広域災害時における公衆衛生支援体制（DHEAT）の普及及び保健所における受援体制の検討事業」の研究班からの報告で、全国の保健所を対象とした実態把握調査、「保健所における災害対応準備ガイドライン（改訂版）」の概要と共に、今後の保健所に対する熱い期待が伝わってきます。4編目の資料は、地域在住の幼児の養育者を対象とした質問紙調査の報告で、幼児期の食行動の問題は、個人要因だけでなく育児環境要因を含めて考える必要があると指摘しています。

今後の公衆衛生活動には、より一層の多職種連携の推進が必要です。情報・知識を共有するために、ぜひ幅広い分野から、公衆衛生活動の実践に役立つご投稿をお待ちしております。

(小嶋雅代)

次号予告（第65巻・第9号）

原 著

離島における青壮年期女性の生活習慣病のリスクを高める飲酒に関連する要因……櫻井純子，他
産後再喫煙の現状とその要因に関する住民ベースの縦断研究……滝 仁志，他

公衆衛生活動報告

埼玉県熊谷保健所の腸管出血性大腸菌 O157 による食中毒事例への対応……土屋久幸，他

資 料

日本人の主観的幸福感の現状：加齢による上昇傾向……島井哲志，他